キャリタス就活 [career+]

2026年卒
Vol.08

6月1日時点の就職活動調査

キャリタス就活 学生モニター2026 調査結果（2025年6月発行）

2026年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、就職戦線は山場を迎えた。売り手市場が続く中、内定率はどのように変化しただろうか。6月1日現在のキャリタス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。

過去の6月調査結果との比較も交えながら、全体的な活動状況を確認したい。

1．6月1日現在の内定状況（※）

○内定率は83.7%。前年同期実績（85.2%）をやや下回るものの高水準

○就職活動終了者は全体の62.0%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて38.0%
文理差が大きく、文系は4割以上が継続（43.5%）。理系は2割台（26.0%）

2．内定保持学生の未決定理由

○「本命企業がまだ選考中」が最多。「自分に合っているかわからない」が次点

3．内定を得た企業の業界

○「情報処理・ソフトウエア」に内定が集中、文理男女とも3割台で1位

4．選考試験の受験状況

○ES提出社数は前年を下回る（平均13.2社→11.8社）。筆記試験、面接社数もそれぞれ減少

○面接形式は依然WEB主流も、最終面接は「対面」が8割近くに（77.3%）

5．就職活動継続学生の動向

○選考中の企業数は平均2.0社。これから受験予定の企業は1.8社

○今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、企業の幅を広げていく」が最多

○「企業規模にこだわらずに活動」する学生が45.8%。5月調査（36.4%）よりさらに増加

6．内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化

○フォローを受けて「志望度が上がったことがある」44.5%

7．インターンシップ等（※）参加企業の本選考への応募と内定

○インターン等参加企業の本選考への応募は87.2%。応募者の76.7%が内定を獲得

○本選考への応募理由「プログラム参加を通じて志望度が高まった」（73.8%）が最も高い

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象：2026年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,056人（文系男子205人、文系女子462人、理系男子248人、理系女子141人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年6月1日～5日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス／キャリタスリサーチ

キャリタス

1．6 月 1 日現在の内定状況

6 月 1 日現在の学生モニターの内定率は 83.7%。先月調査（5 月 1 日 76.2%）からの 1 カ月間で 7.5 ポイント上昇し、8 割を超えた。選考解禁のタイミングで内定率が 8 割を超えるのは 3 年連続となる。

今期は広報解禁前に内定率が約 4 割を記録するなど（2 月調査 39.9%）、早い時期の過熱ぶりが目立った。内定率は 3 月の広報解禁後に大きく伸び、5 月以降は前年をやや下回るものの、依然高水準で推移している。

内定率を属性別に確認すると、文系に比べ理系でやや高いが、いずれも 8 割台。とりわけ理系女子において 9 割近くに上っている（89. 4%）。

＜6 月 1 日現在の内定状況＞

＊「内定」には、内々定を含む

（%）

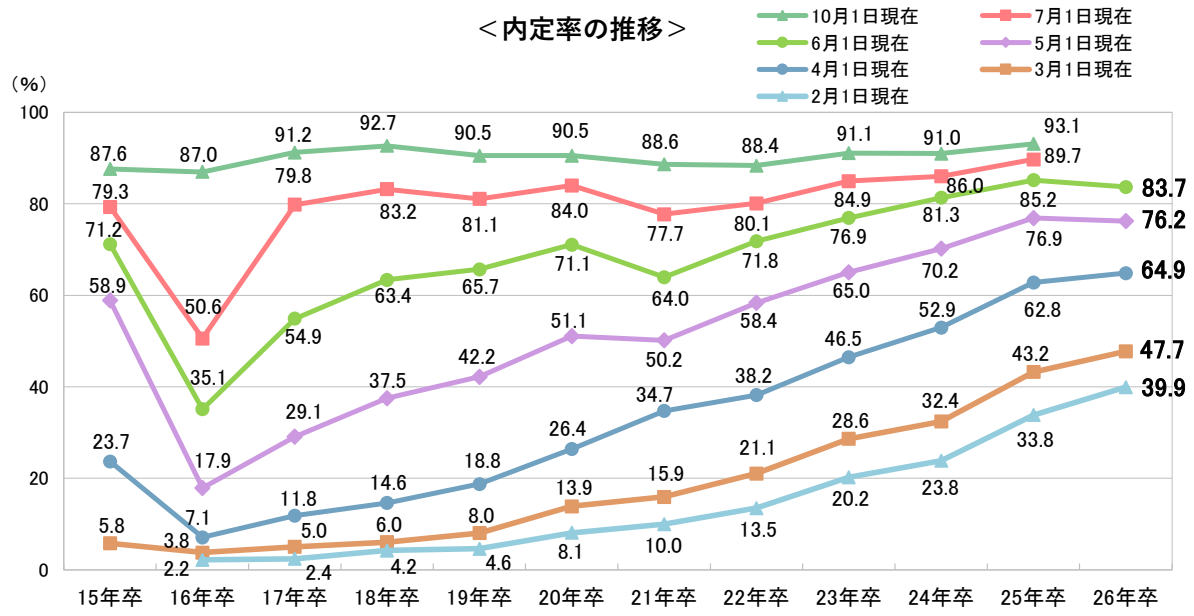
		全　体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		83. 7 (85. 2)	81. 5 (82. 9)	82. 9 (82. 0)	85. 5 (87. 9)	89. 4 (93. 3)
内定なし		16. 3 (14. 8)	18. 5 (17. 1)	17. 1 (18. 0)	14. 5 (12. 1)	10. 6 (6. 7)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	63. 0 (66. 2)	56. 9 (60. 2)	56. 4 (59. 0)	80. 7 (76. 9)	69. 8 (75. 0)
	活動は終了したが複数内定保持	10. 0 (8. 2)	11. 4 (8. 0)	12. 0 (10. 5)	6. 1 (7. 8)	7. 1 (3. 6)
	進学などの理由で就職活動を中止	0. 9 (0. 9)	0. 0 (1. 1)	0. 8 (0. 3)	0. 5 (1. 2)	4. 8 (1. 4)
	就職活動継続	26. 0 (24. 7)	31. 7 (30. 7)	30. 8 (30. 1)	12. 7 (14. 1)	18. 3 (20. 0)

（社）

	全　体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	2. 4 (2. 5)	2. 4 (2. 6)	2. 5 (2. 7)	2. 3 (2. 4)	2. 3 (2. 3)

※（　）内は前年（6月1日現在）の数値

＜内定率の推移＞

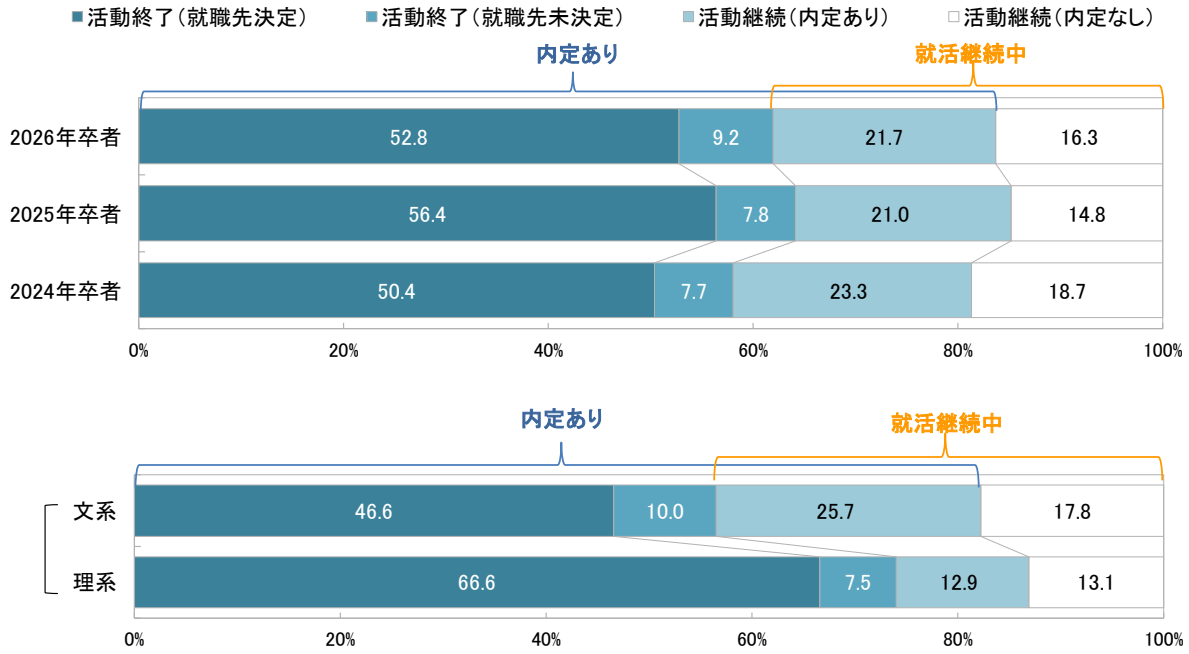


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～26卒は6月

回答者全員を分母に活動状況の分布を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 52.8%。内定率自体が前年同期実績に届かなかったことに加え、内定を得たものの決めきれない学生の割合が増えたことで、決定者の割合は前年（56.4%）を下回った。複数内定を保留しているなど未決定である者（9.2%）を合わせると、終了者は 62.0%。

活動継続者は「内定あり」(21.7%)、「内定なし」(16.3%）を合わせて 38.0%。継続者の割合は文系において高く、内定保持者も含め文系学生の 4 割以上（計 43.5%）が継続中と回答した（理系は同 26.0%)。

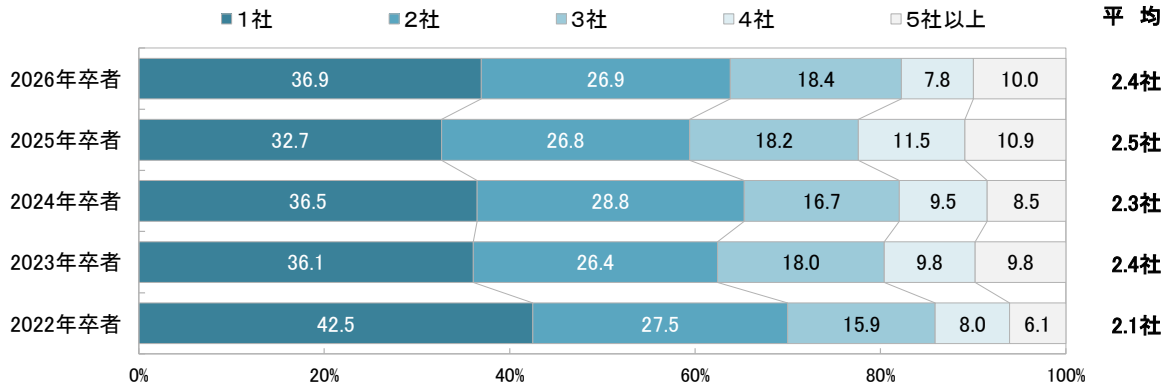
＜活動状況の分布＞



内定を得た学生一人あたりの内定取得社数を詳しく見てみる。「1社」と回答した学生は3割台にとどまり(36.9%)、内定取得者の6割以上が複数の企業から内定を得ている。平均内定社数は2.4社。

コロナ禍以降、売り手市場を背景に複数内定が大半を占める状態が続いており、ここ5年間は平均社数が2社を上回っている。企業側から見れば内定辞退のリスクが高い状況と言え、承諾を促すためにも内定後のフォローが非常に重要となっている。

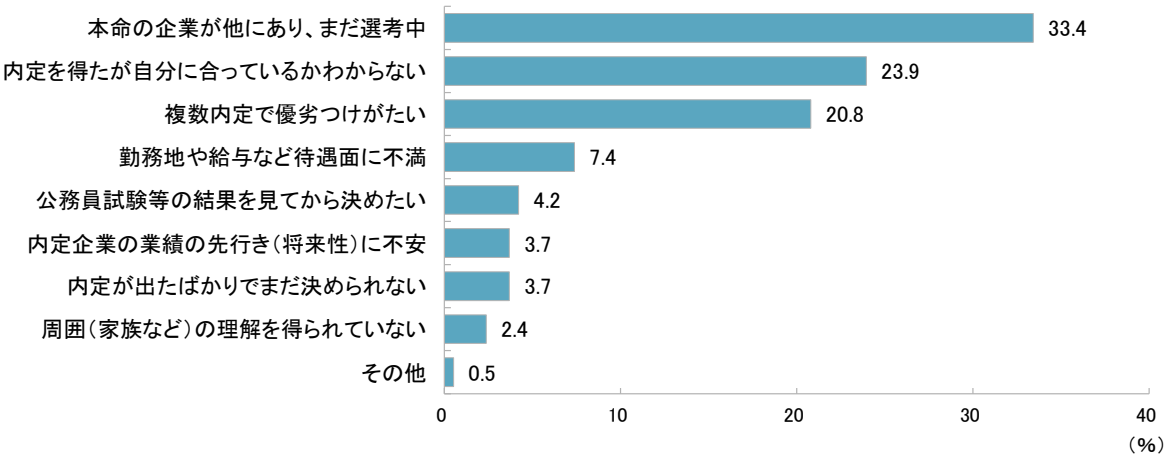
＜6月時点の内定社数の内訳＞



2．内定保持学生の未決定理由

内定を取得しても就職先を決めていない学生（モニター全体の 30.9%）にその理由を尋ねた。最も多いのは「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で（33.4%）、選考解禁後に第一志望の面接が始まったという学生も一定数いるのだろう。本命企業の結果次第という状況だ。「自分に合っているかわからない」（23.9%）、「複数内定で優劣つけがたい」（20.8%）と続き、内定は得たものの決め手に欠け、承諾を迷う学生も少なくないことがわかる。前ページで確認したように複数の企業から内定を得ることが珍しくなくなっており、なかなか決められない要因につながっているようだ。

＜内定保持者が就職先を決めていない理由＞



3．内定を得た企業の業界

6 月 1 日現在で内定を得た学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた（全 40 業界。複数回答あり）。5 月調査までに引き続き「情報処理・ソフトウエア」が最多（32.9%）。文理男女のいずれにおいても 3 割台と高く、属性に関わらず多くの内定が出ている様子がわかる。

2 位は「銀行」（14.8%）。文系男子で 2 位、文系女子で 3 位と特に文系において順位が高い。全体の 3 位は「建設・住宅・不動産」（14.5%）で、4 位「調査・コンサルタント」（14.3%）と続く。

＜内定を得た業界（上位 10 業界）＞

※6つまで選択　（%）

	全　体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト　①	32.9	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	31.7	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	30.0	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	38.2	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	35.7
2	銀行　⑤	14.8	銀行	27.5	人材サービス・人材紹介・人材派遣	14.4	電子・電機	23.1	医薬品・医療関連・化粧品	23.0
3	建設・住宅・不動産　②	14.5	建設・住宅・不動産	17.4	銀行	13.6	自動車・輸送用機器	22.2	建設・住宅・不動産	17.5
4	調査・コンサルタント　④	14.3	調査・コンサルタント	13.8	調査・コンサルタント	13.3	調査・コンサルタント	19.8	電子・電機	15.9
5	電子・電機　⑥	11.1	コンビニエンス・GMSストア	12.0	保険	12.5	素材・化学	16.0	素材・化学	15.1
6	人材サービス・人材紹介・人材派遣　③	10.3	その他サービス	10.2	建設・住宅・不動産	11.5	建設・住宅・不動産	13.7	人材サービス・人材紹介・人材派遣	12.7
7	情報・インターネットサービス ⑭	9.9	運輸・倉庫	9.6	その他サービス	11.2	機械・プラントエンジニアリング	11.3	調査・コンサルタント	9.5
8	その他サービス　⑧	8.7	情報・インターネットサービス	9.0	情報・インターネットサービス	11.0	情報・インターネットサービス	10.8	精密機器・医療用機器	
9	保険　⑨	8.0	専門店		専門店	9.7	医薬品・医療関連・化粧品	8.5	水産・食品	8.7
10	自動車・輸送用機器　⑦	7.9	人材サービス・人材紹介・人材派遣	8.4	教育	8.9	精密機器・医療用機器	6.6	官公庁・団体	7.9
			保険							

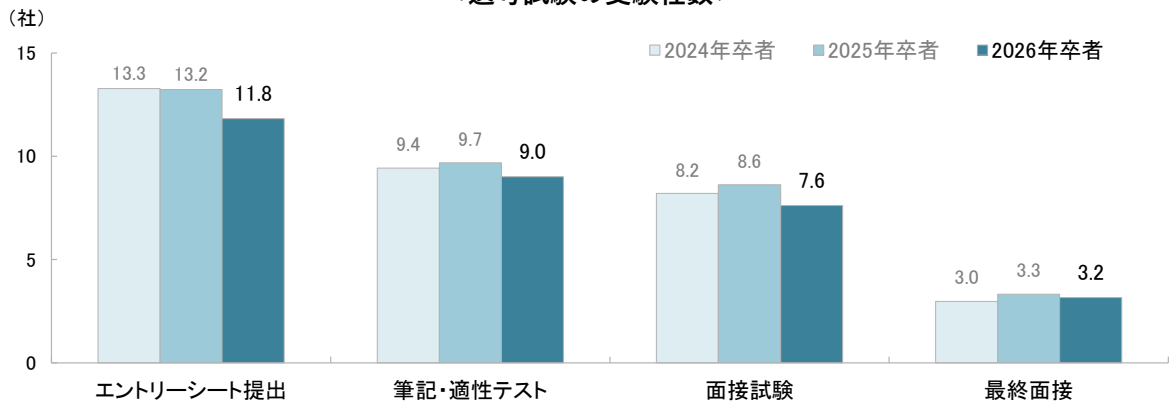
※○の中の数字は前年同期調査の順位
※「その他サービス」＝介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

4．選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を確認したい。エントリーシート（ES）の提出社数の平均は 11.8 社で、前年同期（13.2 社）を 1.4 社下回る。筆記試験（9.7 社→9.0 社）、面接試験（8.6 社→7.6 社）も同様に減少しており、受験社数を絞って活動する学生の動向が読み取れる。こうした動きが、内定率が前年実績を下回った要因の一つになっているとも考えられる。

選考試験の社数を文理別で比較すると、男女ともに文系の方が多く、理系は社数を絞り込む傾向が強い。

＜選考試験の受験社数＞



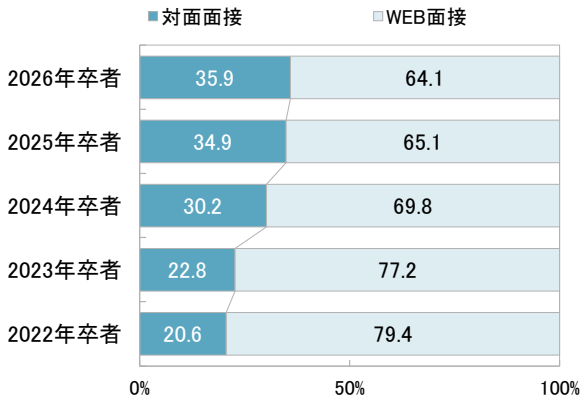
※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

（社）

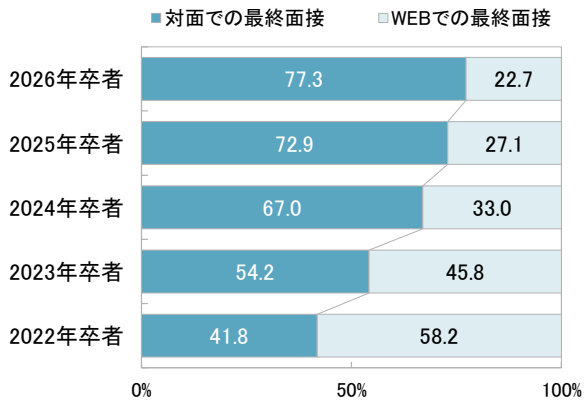
	全　体	（前年全体）	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	11.8	13.2	12.9	12.9	9.2	10.0
筆記・適性テスト	9.0	9.7	10.4	9.2	7.4	7.5
面接試験	7.6	8.6	8.5	8.1	6.0	6.2
最終面接	3.2	3.3	3.4	3.2	3.0	2.8

これまでに受けた面接試験の形式（対面とWEB）の割合を尋ねると、対面での面接が35.9%、WEB面接が64.1%と、WEB面接の方が多い。しかし、最終面接については対面形式が8割近くとなり（77.3%）、初期の面接はオンラインで行っても、採用の可否を決める最終面接は対面形式で実施するという傾向は、コロナ禍の収束以降、年々強まっている。

＜対面面接とWEB面接の割合＞



＜最終面接の受験形式＞



5．就職活動継続学生の動向

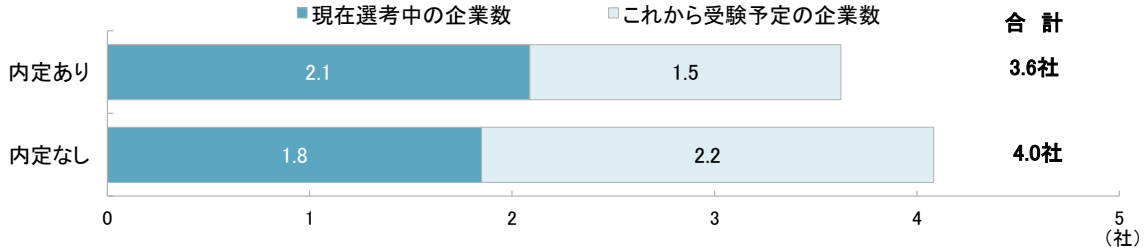
内定保持者を含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 38.0%）の動向を確認したい。

現在選考中の企業数は平均 2.0 社、これから受験予定の企業数は 1.8 社と前年同期と大きな変化は見られない。これを内定の有無別で見ると、「内定あり」の学生は現在選考中の企業数が 2.1 社、「内定なし」の学生はやや少なく 1.8 社だが、これから受験予定の企業数については「内定なし」学生の方が多い（内定あり 1.5 社、内定なし 2.2 社）。

＜持ち駒企業数＞

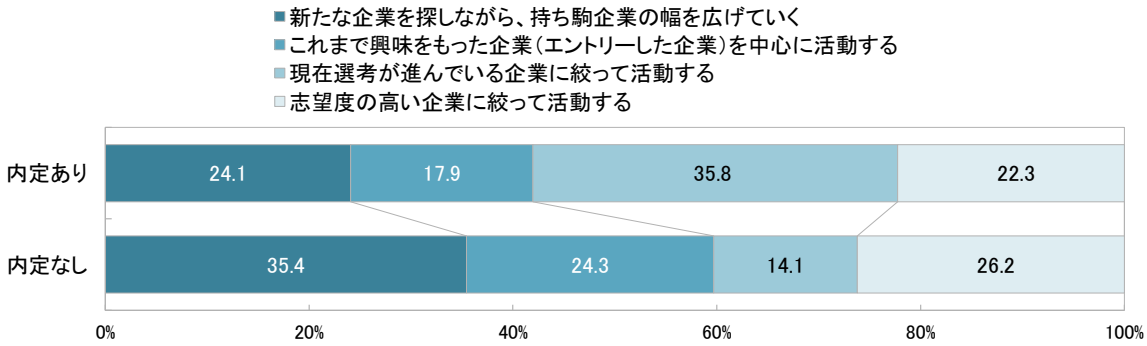
（社）

	全　体	（前年全体）	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	2.0	2.3	2.1	2.0	1.9	1.6
これから受験予定の企業数	1.8	1.7	2.2	1.6	1.9	1.0

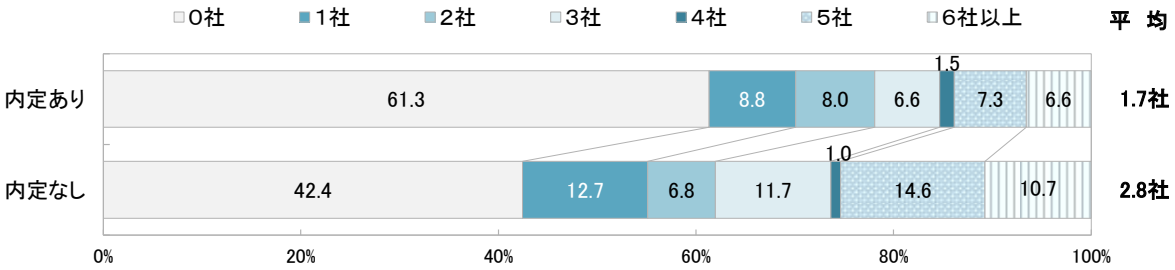


今後の活動方針についても内定の有無により違いが見られる。内定を持ちながら活動している学生は「選考が進んでいる企業に絞って活動する」が最も多く（35.8%）、未内定学生は「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」が最も多い（35.4%）。その姿勢は今後のエントリー予定社数にも表れており、内定保持学生が平均 1.7 社に対し、未内定学生は 2.8 社。積極的に受験企業を増やそうとする意欲が感じられる。

＜今後の就職活動の方針・戦略＞

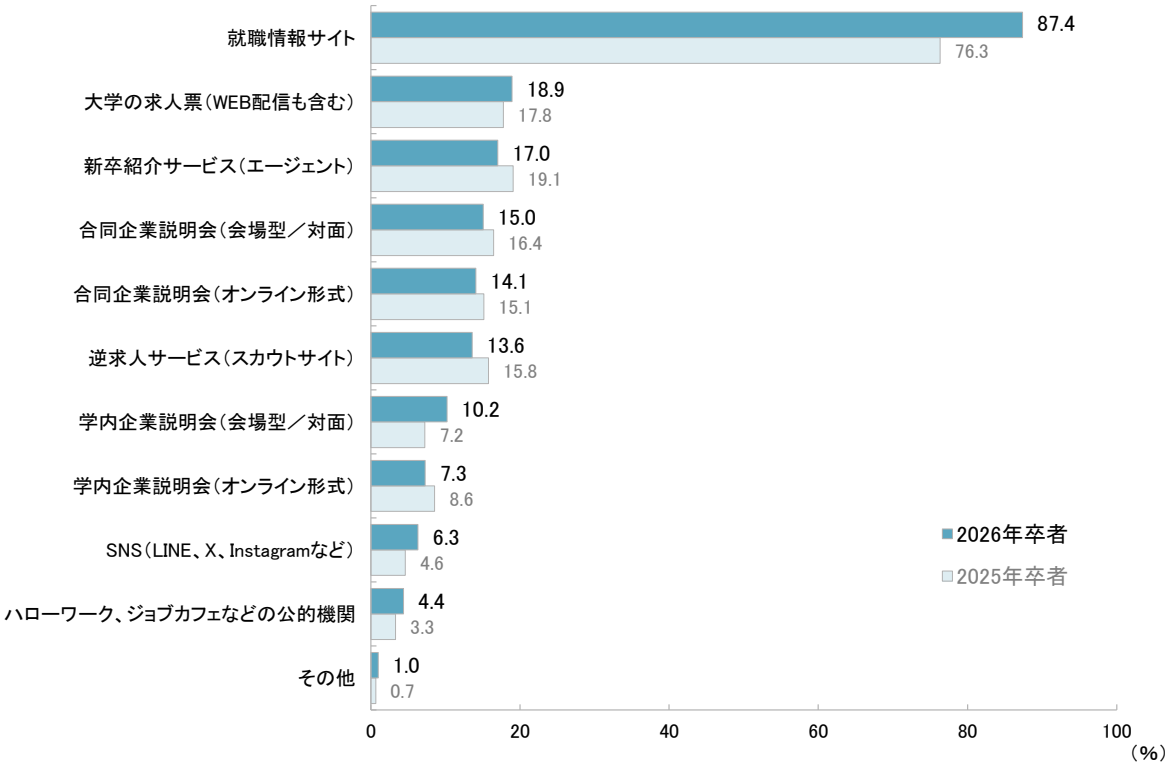


＜今後のエントリー予定社数＞



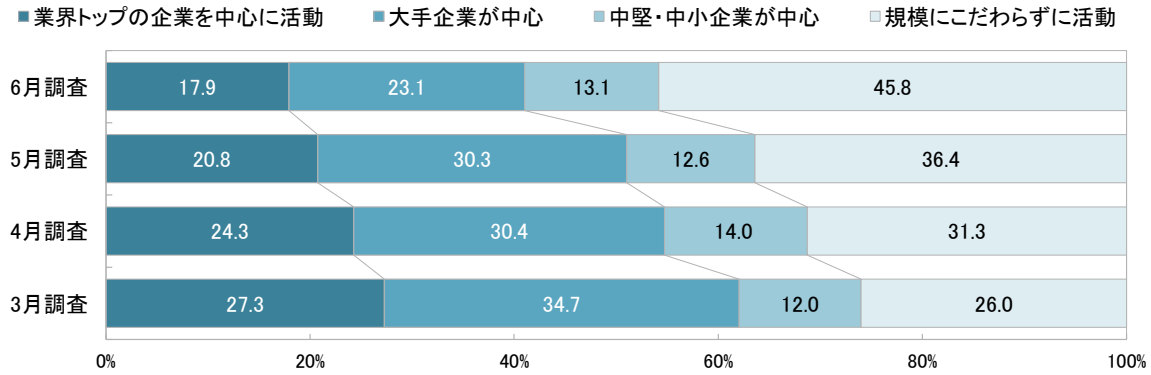
新たな企業を探す手段（ツール）については、「就職情報サイト」が 87.4%と圧倒的に多く、前年調査比 11.1 ポイント増加。「大学の求人票」以下の項目はポイントが分散しており、就職情報サイトを主軸に、それぞれが自分に合ったツールを選択・利用して新しい企業の情報を探そうとしている様子が見て取れる。

＜新たな企業を探す手段＞



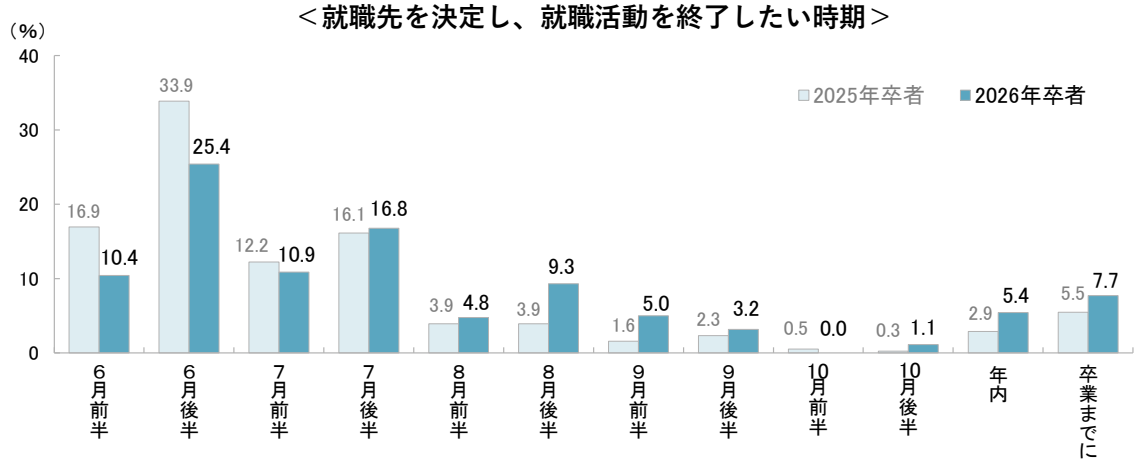
就職活動の中心においている企業規模について、この 4 カ月の推移を見ると、5 月調査までは「業界トップ」と「大手企業」志望の学生が半数を超えていたが、6 月調査では約 4 割に減少（計 41.0%）。「規模にこだわらずに活動」する学生が増加し、大手志望を上回る結果となった（45.8%）。選考解禁を迎え、就職戦線が事実上の後半戦へと入っていく中で、これまでよりも広い視野をもって活動しようという意向が垣間見える。ここから先、企業規模にとらわれずに活動する動きはさらに増えていくものと見られる。

＜就職活動の中心においている企業規模＞



就職先を決定し就職活動を終了したい時期は、「6 月後半」が今年も最も多いものの、前年調査に比べ大きく減少した（33.9%→25.4%）。前年は「6 月」を回答する学生が過半数に上るなど（計 50.8%）、早期の終了を希望する傾向が強かった。今年も夏休み前に終了したい学生が大半であることに変わりはないが（7 月までの計 63.5%）、秋以降の時期を回答するなど長期戦を覚悟している学生が増えた。

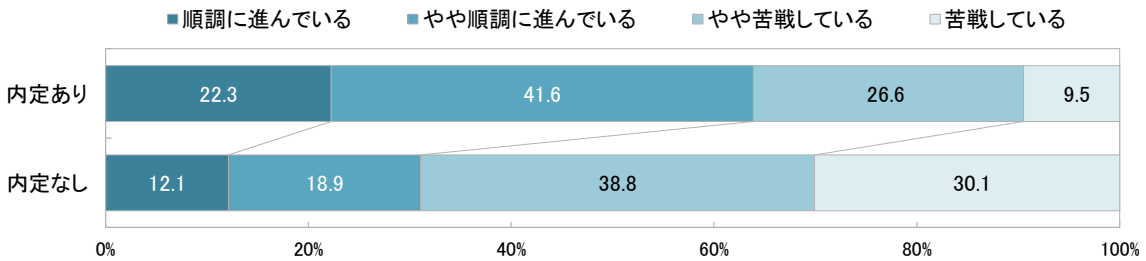
＜就職先を決定し、就職活動を終了したい時期＞



就職活動の進捗度合を尋ね、内定の有無別に集計した。「順調」「やや順調」という回答は「内定あり」の学生では 6 割超（計 63.9%）であるのに対し、「内定なし」の学生は 3 割にとどまる（計 31.0%）。2 倍以上の差がついており、内定の有無による捉え方の差異が顕著。

ただ、内定を持っている学生でも 3 割以上が「苦戦」と回答（計 36.1%）しており、なかなか面接を突破できない、志望度の高い企業からの内定を得られない、といった声が寄せられた。

＜就活継続者の進捗度合＞



■「順調に進んでいる」と思う理由

○一番気になっている企業の一次面接に通ったため。　＜文系女子＞
○最終面接に何度も進んでおり、今のところは順調だと感じている。　＜文系男子＞
○内定はいただけているため。一方で、自身に合っているのかどうかの判断には苦戦している。　＜理系男子＞
○入社したいと思える企業から内定をもらえたため。　＜理系女子＞

■「苦戦している」と思う理由

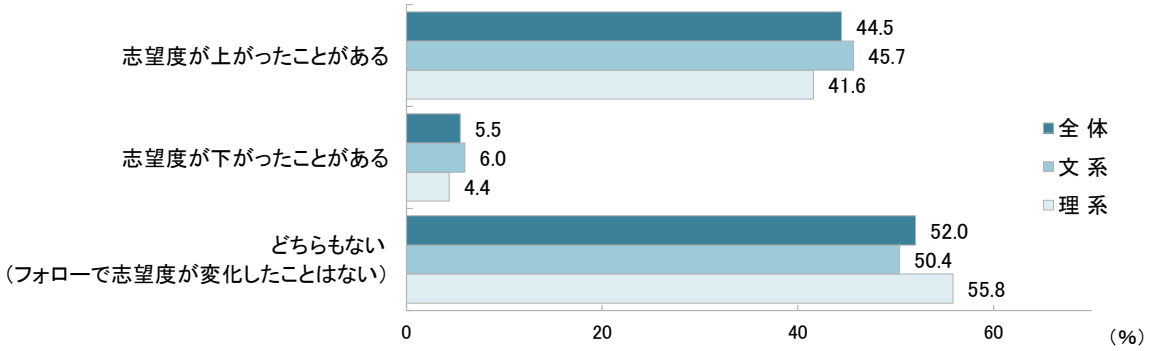
○選考対策をして頑張っても選考に通らない中で、採用活動を行う企業が次第に減ってきているから。　＜文系女子＞
○第一志望の企業に落ち、他に自分が働きたい業界や企業が見つかっていないため。　＜理系女子＞
○目標としていた就活終了時期よりも、大幅に遅れているから。　＜文系男子＞
○第一志望業界の内定を取れていないから。　＜理系男子＞
○最終面接までいっても選考を通過しない。　＜文系女子＞

6．内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化

内定を得た企業から内定通知後に受けたフォローで、志望度や入社意欲に変化があったかを尋ねた。「志望度が上がったことがある」が 4 割を超えており（44.5%）、内定後のフォローが入社意欲を高めるのに一定の効果をもたらしていることが読み取れる。

一方で「志望度が下がったことがある」との回答もあり（5.5%）、適切な頻度や姿勢でのフォローが求められる。

＜内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化＞



■志望度が上がった、嬉しかった内定者フォロー

○メールでの内定通知後に、電話もくれて丁寧だと感じた。当時はもう 1 社と悩んでいたため素直に伝えたところ、社員面談の機会を設けてくださりざっくばらんにお話しすることができ、志望度が上がった。＜文系女子＞

○最終面接を担当した役員の方からフィードバックを文書でいただけた。＜理系男子＞

○本来の承諾期限を過ぎても、他社の選考状況に応じて返事をしてくれたらいいと言ってもらえた。それだけ自分を強く必要としてくれていると感じた。＜文系女子＞

○内定者懇親会で非常に楽しめた。このような人に囲まれて仕事がしたいと思えた。＜文系男子＞

○懇親会で、社員の方がどんなモチベーションで働いているのかを本音ベースでお話ししてくださったこと。＜理系男子＞

○先輩社員とのランチ会を通して、給与や休暇など様々な良い点を詳しく知ることができた。＜文系女子＞

○頻繁に面談を組んでくれて悩みを解消することができたこと、オフィスツアーの機会を個人的に設けてくれた。＜理系女子＞

○面接のフィードバックや期待している点をポジティブ、ネガティブ両面言ってもらえた。＜文系男子＞

○事業や職種の配属確約がもらえた。＜文系男子＞

■志望度が下がった、不快に感じた内定者フォロー

○早い時期での内定承諾を迫られ、リクルーターからしつこく連絡がきた。＜文系女子＞

○他の企業を辞退するよう急かされたこと。＜文系男子＞

○他の企業の採用選考に割く時間を減らすための課題や宿題が出された。＜理系女子＞

○他内定先と迷っている時に、他社のことを下げる発言が多かった。＜文系女子＞

○内定者座談会があったが、期待していた内容ではまったくなかった。他の内定者とのコミュニケーションがほとんど取れなかった。＜文系女子＞

○給与に関しての質問を濁されたこと。＜文系男子＞

○研究が始まったのにもかかわらず、懇談会などの案内を複数回された。＜理系男子＞

○毎月のように来社を求められた。交通費が支給されればまだ良かったが、毎回自費のため負担が重かったです。＜文系女子＞

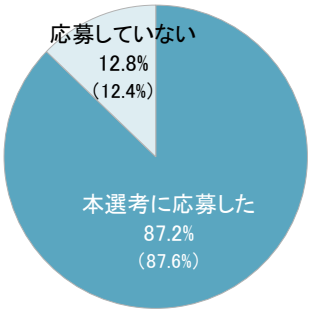
○情報を得る手段やフォローが何もないと志望度は下がる。＜理系女子＞

7．インターンシップ等参加企業の本選考への応募と内定

インターンシップ等プログラムへの参加経験がある学生（モニター全体の 85.4%）に、参加企業への本選考応募と参加企業からの内定の有無を尋ねた。

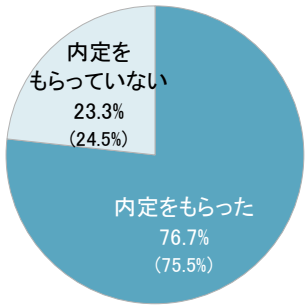
「本選考に応募した」は 9 割近くに上り（87.2%）、応募経験を持つ学生が大半。本選考応募社数の平均は 5.6 社で、参加社数（10.6 社）の約半数。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は 76.7%で、前年調査（75.5%）を上回る。内定社数の平均は 2.2 社。複数の参加企業から内定を得る者も少なくない。

＜インターン等参加企業への本選考応募＞



※インターンシップ等参加経験者が回答（1日以内のプログラムも含む）
※（　）内は前年同月調査の数値

＜インターン等参加企業からの内定＞

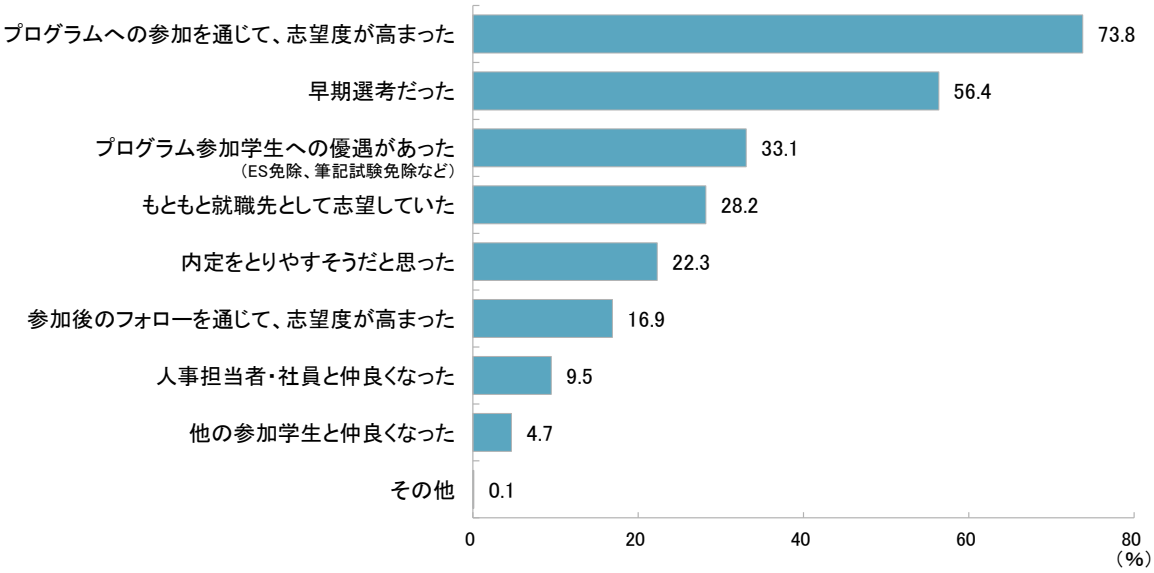


※インターンシップ等参加企業の本選考応募者が回答

（社）

	インターン等参加社数	プレエントリー社数	本選考応募社数	内定社数
2026年卒者	10.6社	8.4社	5.6社	2.2社
2025年卒者	12.1社	9.4社	6.2社	2.3社

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

本選考に応募した理由を尋ねると、「プログラムへの参加を通じて、志望度が高まった」が最も高い（73.8%）。参加したことで企業理解が深まり、就職先として意識するケースが多いことがわかる。次いで「早期選考だった」（56.4%）、「プログラム参加学生の優遇があった」（33.1%）が続き、インターンシップ等のプログラムに参加した学生を本選考につなげようとする企業が多いこともうかがえる。

＜インターンシップ等参加企業の本選考に応募した理由＞